

JAMS 発足 10 周年にあたって

1992 年 4 月 17 日に発足した日本マレーシア研究会 (Japan Association for Malaysian Studies、JAMS) は、今年で発足 10 周年を迎えました。この間 JAMS は、毎年の総会のほか、マレーシア大使への表敬訪問(1993 年 4 月)やマレーシア大使館での公開セミナーの開催(1995 年 6 月)をはじめ、各地区の研究会など数多くの活動を行ってきました。会員数 25 人で発足した JAMS も現在では会員数 150 人を数え、今後も若手研究者や大学院生を中心にますます増えていくものと思われます。

JAMS 設立当初の様子を知らない会員も増えていることと思いますので、これを機会に、JAMS 発足時の会報に掲載された設立の趣旨を改めてご紹介したいと思います。

今回発足しましたジャムスの前身は、1987 年にマレーシア研究留学中だった若手研究者による勉強会でした。滞在期間の限られたそれぞれの研究者は個人の専門研究に追われがちで、本来なら広く耳を傾け、目を配るべき他の分野の研究や基本的な情報に疎くなりがちでした。当時週 1 回の割合で持たれた勉強会は、参加者がそれぞれの専門分野に根ざした研究成果を発表し批評しあうなかで、専門以外の分野に関する知識や資料の所在とその入手方法、マレーシア事情全般、ひいては日常生活で直面した問題など、諸々の情報を交換する場として効果を上げました。そして幸いにも、この勉強会は長期滞在の研究者ばかりでなく、しばしば短期出張でマレーシアを訪問された専門家の方々や現地日系企業の駐在員のみなさまにも参加いただき、さまざまな分野にまたがる「交流ネットワーク」として実を結びました。

ジャムスは、このネットワークを母体にしながらも、日本においてさらにその輪を広げてゆき、マレーシアに関する研究や情報の交流をより一層進めていく窓口になることを目指し発足しました。その意味で、今後さまざまな分野からマレーシアや広くマレーシア世界に関心をお持ちの方々にジャムスに参加していただきたいと考えます。

(『JAMS News』創刊準備号(1992 年 5 月 10 日)より)

JAMS が今後さらなる発展を遂げるためには、活動への会員のみなさんの積極的な参加が欠かせません。JAMS の設立に込められた期待を確認した上で、それを今後どのように発展させることができるのか、会員のみなさんとともに考えていきたいと思ひます。

JAMS 事務局

会計担当 永田 淳嗣

会報担当 山本 博之

関西地区担当 左右田直規

九州地区担当 石井 由香